

災害情報のメタ・メッセージが避難行動意識に 及ぼす影響

小林桃子

本研究の目的は、災害のリスク情報を正しく伝達することができる災害情報と避難行動を促す表現を明らかにすることである。目的のために、災害情報の表現の違いがもたらす避難行動意識への影響に関するアンケート調査を行った。質問1から質問10に表示されている文言を読んでもらい、どのくらい避難しようと思うかの程度を、自分の気持ちに当てはまるものをL1~L5の中から1つ選んで回答してもらおうとした。1つの問いに対して、5つの災害情報の文言が記載されている。調査対象は大東文化大学飯塚ゼミ所属17名である。

得られた結果をもとに、5つの仮説を立て検証を行った。仮説1は命令形の表現が与える印象について考察し、命令形の文言は「避難しようと思う」回答が多い結果が出た。仮説2は、「〇〇したほうが良い」という表現は災害情報の伝達に適さないのではないかと考えた。この表現は「避難しようと思わない」の回答が多く、災害情報には適切ではないと言える。仮説3は文字数の違いについて考察を行った。文字数と避難行動意識には相関関係が見られなかった。仮説4は「避難」という単語の影響について考察を行った。「避難」という単語を含む選択肢は「避難しようと思う」という回答が多く出た。仮説5は「〇〇する」という表現についてである。この選択肢は、「どちらともいえない」の回答数が多く、災害情報には適していないことが分かる。これら5つの仮説の検証を行い、メタ・メッセージ効果を乗り越えた災害情報の表現を考察する。

調査結果と仮説の考察の結果、簡潔な命令形の表現で、曖昧な言葉遣いを避け、「避難」という単語を用いることが望ましく、単語と語尾の両方に配慮すべきという結論が出た。さらに、メタ・メッセージ効果の対策には、災害情報の文言に配慮すると同時に、平時からの災害リスクの認知の積み重ねも重要だと考えられる。